

新型コロナウイルス感染症が流行して早 2 年が経過しました。妊婦にとっては、妊婦健診のために受診すること自体に感染の脅威を感じたり、マタニティクラスや保健指導の機会が大幅に減少したりしています。面会制限にともない、妊娠中に多く聞かれるのが「1 人で出産に臨むのが不安」という声です。心身ともに出産の準備が整わない中、助産師として妊婦のニーズに限りなく寄り添えるよう心がけています。動画配信による保健指導に加え、母子同室中には授乳や沐浴などの個別指導の充実を図っています。家族による陣痛室でのサポートや立ち合い分娩もいまだ行えていない中で、少しでも心身ともにリラックスできるように頻回に訪室し、出産をともに喜べるように気持ちを込めたケアを行っています。

新型コロナウイルスに感染した妊産褥婦に対しても、入院中は助産師が専門病棟に出向き NST 装着や保健指導を行っています。産褥期には母乳ケアや育児技術の指導を専門病棟スタッフと情報交換しながらニーズに応じたケアを提供しています。母子分離に対して、リモートで母子面会を行いながら愛着形成を促し、スムーズに育児を行えるように小児科と協働して育児サポートをしています。

病院での新型コロナウイルス感染症管理指針に従い、コロナ陽性妊産褥婦対応マニュアルは随時見直しています。産科、小児科、手術室と合同で帝王切開術シミュレーションも実施しました。また、新型コロナウイルスに感染した妊婦の帝王切開術・経膈分娩の担当者を中心に振り返りを行い、安全な医療の提供ができるように日々取り組んでいます。コロナ禍であっても妊産褥婦が安心して出産・育児に臨めるように日々頑張っていきたいと思います。

8月～R5.1月の研修会及び行事

新型コロナウィルス感染症の拡大状況によって急に変更する可能性があります。
変更時は、「とらうべ通信」およびホームページに掲載します。

「演題名」 講師名	開催日時 場所	備考
「新生児のフィジカルアセスメント」 香川大学医学部付属病院小児科医師 小谷野耕佑	オンデマンド配信期間 7 月 1 日 (水)～8 月 31 日 (水)	・GLoCMiP レベルⅢ認証申請に有効な必須研修（新生児のフィジカルアセスメント）です。研修承認番号 22_C07C07_02_00929 ・香川県助産師会ホームページに申込のアドレスを掲載しますのでご確認ください。
「歯科医が助産師に伝えたいこと」 もりぐち歯科クリニック院長 森口善夫	9 月 11 日 (日)10 時～11 時 いのちの応援舎多目的ホール (高松市春日町 1176)	・赤ちゃんの口育を中心とした研修です。
「新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップコース」 助産師 竹内美由紀 高松赤十字病院 助産師 熊野明江	R5 年 1 月 28 日 (土)9:00～12:00 香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター (スキルスラボラトリー)	・会員・非会員により申込期限が異なります。

- * すこやか助産師センター事務所へ、電話または FAX で申し込みをしてください。
Tel : 087-844-4131 Fax : 087-844-4130 電話受付時間：月から金曜日の 10:00～16:00（祝祭日を除く）
 - * 「新生児のフィジカルアセスメント」は、香川県助産師会ホームページのお知らせよりお申し込みください。
オンデマンド配信期間中は、随時申込み可能です。
 - * 新生児蘇生法（NCPR）スキルアップコースについて
 - ・会員の申し込みを優先とします。非会員の申し込みは、令和 4 年 9 月 1 日（木） からとします。
 - ・会員・非会員ともに申込期限は、令和 4 年 12 月 1 日 (木) 16:00 までとします。
- ただし期限内であっても募集定員 (12 名) に達した場合は、その時点で募集を終了します。
- ・申し込み時には、認定番号、有効期限、所属施設名、携帯番号を必ずお伝えください。



会長挨拶

会長 宮本 政子

香川県助産師会の会員の皆様、厳しい暑さが続くなか、いつも香川の母子保健に貢献していただきありがとうございます。



昨年の 8 月号では熱海の土石流の災害状況について書いたのですが、今年は異例の短い梅雨で、四国の水瓶早明浦ダムの水不足が取りざたされております。毎年良くないことばかり書いておりますが、今年も新型コロナ感染症の急拡大、物価高、止まらないロシアのウクライナ侵攻、安倍元総理の銃撃など出口の見えない社会情勢が続いております。厳しさを増す社会ではありますが、助産師として少しでも社会貢献できる活動ができればと願うところです。

さて、香川県助産師会では 3 年ぶりにオンラインではありますが総会が開催できました。しかし、オンラインでの意見交換はとても難しく、会員の皆様のお声を十分にお聞きできたとは言えず、活動報告中心になってしまいました。できるだけ会員の皆様のご期待に沿えるよう、ご承認頂いた令和 4 年度の事業を進めて参りたいと思います。今年度の役員改選は監事 1 名のみで、竹内美由紀様に新規に就任していただきました。これまで助産師会の副会長としてのご経験もあり、監事として助産師会の事業など厳正に監査して様々なご助言をいただければと期待しております。また、長らく財務担当理事、監事としてご就任頂き、助産師会の運営に貢献していただいた鎌田千代子様には心より御礼を申し上げます。

今年度の事業計画では、産後ケア事業評価委員会でサービスの現状等の調査を行い、諸課題への対応策を検討したいと思います。また、香川県から委託された「妊娠・出産サポート事業」では妊産婦さんの不安軽減に向けて相談活動を充実させたいと思います。

今年度の教育計画では中国四国地区研修会で好評であった小谷野先生の「新生児のフィジカルアセスメント」の動画を再度配信します。総会が対面式で行えれば小谷野先生に直接ご講演をいただく予定でしたが、コロナが終息せずオンデマンド配信に変更しました。特に GLoCMiP®レベルⅢ認証の必須研修に認定されており、医療施設で勤務する助産師さんに受講していただきたいと思います。「新生児蘇生法（NCPR）スキルアップコース」の研修は例年どおり開催します。

そして「いいお産の日」関連事業は、今年は予約制で西讃・東讃ともに開催します。詳細は近づいてまいりましたら HP 等でお知らせします。県内の医療施設の助産師の皆様にご協力を頂き準備を進めております。

日本助産師会の動向では、会員管理がクラウド化され、会員のマイページが作られました。皆様ご利用いただいておりますか？研修会等の周知等に使える機能も多く、少しずつ前進しております。その他 GLoCMiP®レベルⅢの更新及び申請につきましてはこれまで同様、積極的に資格を得ていただきますようお願いいたします。また、産後ケア実務助産師研修も継続されるので、地域での母子保健活動を希望される方は是非認定の申請をして下さい。日本助産師会の HP に詳細が記載されております。コロナ禍で不安を抱える母子や家族は増えており、産後ケア事業など助産師の専門的支援が求められております。市町の産後ケアの在り方も市町独自の取り組みが増えることが予想されます。新しい動向に敏感に対応できるよう常に新しい知見を身につけておきたいものです。そして会員の皆様が助産師としての力を、施設・地域を問わず発揮していただきますことを期待しております。



とらうべ通信100号記念 「産婆の知恵」

とらうべ通信100号を記念して真鍋由紀子さんに今までの経験や後輩助産師へ伝えたいこと等を助産師魂を込めて書いていただきました。100号以降もベテラン助産師さんに「産婆の知恵」を伺っていききたいと思います。



私も義母も助産師さん ―義母からの学び― 眞鍋由紀子

助産婦学校卒業と同時に看護学校の母院である高松赤十字病院に帰ってきました。その先輩助産師の一人が義母でした。

結婚して間もなくのことでした。常位胎盤早期剥離の症例で自分の観察事項で判断できず先輩にタッチしてすぐさま処置がなされて事なきを得たことで落ち込んでいるとき義母から「一つ一つの受け持たせてもらう事例を大事にすること、私はいつも自分の娘だったらどこをどうさすたら楽かなということをいつも考えながらお産につかせてもらっている」(義母の義母しかできないオンリーワンの助産師の仕事)という言葉をかけてもらいましたが、その時は「この忙しいときにそんな気持ちでいちいちかわっておられへん」という気持ちが強く常に忙しく業務に追われる毎日を送っていました。ある日、深夜勤務で出勤してから朝の9時までに9人の人がお産をされ、一人一人のお母さんに「おめでとうございます。よく頑張りましたね」という言葉をかけることができず記録に追われ、疲れ果てて帰宅した時「私、こんな仕事をしょってえんだろか」という気持ちになり義母の言葉が頭をよぎりました。私にしかできない「私のオンリーワンの仕事」とは、を考え始めた時でした。

そして私の仕事にとっての「オンリーワンとは何ぞや」を常に考え出したのはさめき市民病院産婦人科病棟に勤務しだしたころからでした。混合病棟で助産師・看護師がペアで夜勤に入り分娩が入れば呼び出し体制という変則勤務体制の中で私にとってのオンリーワンの仕事とはを考えた時、入院される妊産婦さんの想いに寄り添い楽な気持ちで入院生活が送れるにはどうするかを考えたいと思いました。そんな時、悪阻で入院中の妊婦さんの向かいのベッドが開いていてそこに内科のオシメ交換が必要な患者さんを入院させたいとの情報が入りました。内科の主治医に「先生の娘さんが悪阻で入院中と仮定して向かいのベッドにオシメ交換中の人が来られて、娘さんの療養ができたらどうぞ入院させてください」と伝えたところ内科の入院は中止となりました。入院中のお母さんたちを守るのは助産師である私にしかできないことでした。おかれている立場で今できるオンリーワンの仕事を積み重ねてきました。

1996年5月 ICM オスロ大会が開かれたとき2週間の休暇を取り参加しました。出発の朝、義母がグリーンピースの豆ご飯を炊いて「まめに元気で行っておいでよ」と送り出してくれました。この心遣いに旅行中ずっとほっこりした想いで過ごすことができたこと、今思い出してもほっこりします。そんな義母に支えられ、育てられた私の助産師魂です。

ぼっこ助産院では助産師の原点に返り、来られる妊産婦さんの想いに寄り添いその人らしさを求めた支援ができる場所です。ぜひ多くの助産師さんたちに立ち寄って欲しいところです。



総会報告 2022年度 公益社団法人 日本助産師会通常総会 報告：代議員 牟禮実里

今年度から、日本助産師会通常総会および助産師学会はこれまでの全国各地での開催から、日本助産師会を拠点とした東京での開催でした。

総会は会場かオンラインでの参加で ZOOM 上での審議となり、代議員以外はストリーミング配信で視聴できるという形でした。コロナウィルス感染拡大後初めての対面形式での開催となり、東京の一橋大学一橋講堂でありました。前日まで快晴だったにも関わらず当日は雨と傘が飛びそうな程の強風の中やっとの思いで会場までたどりつき無事に参加できました。会場は 16 名、オンライン上で 119 名の代議員が参加しました。提出議案（第 1 号議案～第 3 号議案）は次々と承認されました。周産期に特化した日本助産師会の訪問看護ステーション「とりこえ訪問看護ステーション」についての質問が各都道府県からあり、注目されている事業なのだと感じました。同時に開催された日本助産師学会の中でも発表されていました。現在内閣府にて厚生局の承認を受けて審査中とのことで、今後の展開を楽しみにしたいです。提出議案、事業報告は日本助産師会機関紙 5 月号「助産師」をご参照ください。

現在再びコロナ感染拡大しており第7波の到来か・・・とされています。今回東京の現地開催に参加させていただき、会場での理事の方々の熱気を肌で感じ、また香川で頑張ろうと思っていただけに来年もどうなるのか不安はつきませんが、全国の助産師が力を合わせて今の現状に向き合えたらいいなと思っています。

研修報告

研修報告 「赤ちゃんから始まる性教育を受けて」 辻 美穂
コロナ禍の状況の中、久しぶりの対面式講義で、私にとっては初めての香川県助産師会の研修でもありました。助産師が集結した力強さを感じながら、充実した研修内容にたくさん良い刺激を受けました。

これまで性教育に関して難しく苦手な分野だと感じていましたが、特別に行うものではなく、日常生活の中から楽しく子どもたちへ伝えてあげること、そして思春期に入る前から行っていくことが大事だと学びました。また、入院中や妊婦健診時に前回の出産エピソードを尋ねるとどの母親も話ることができるように、母親から子どもたちへ生まれた時のことを話してあげることは学校の授業では伝えられないかけがえのない命の教育になる容は幅広く、「自分のことを大切にする」というメッセージは子どもだけでなく母親も立場からできることがたくさんあると実感できました。



若年妊婦や複雑な家庭環境にある事例についても内容に上がりました。これまで関わり方や継続的な支援の方法に困難を感じていましたが、真摯に向き合い、手助けできる助産師になっていきたいです。性教育は母子関係の構築につながる根源になると考え、これから少しずつ向き合っていこうと思います。

性教育におすすめの本やサイトも多く紹介していただいたので、私自身楽しみながら参考にしていきたいです。貴重な学びの機会になりました。ありがとうございました。



いいお産の日記念事業

高松会場実行委員長 小原井恵美

いいお産の日記念事業（高松会場）を2年ぶりに開催いたします。会場は春日町にありますいのちの応援舎、日程は11/3（木）9：30～12：00です。長く続くコロナ禍ではありますが、このご時世だからこそ、私たち助産師が力を合わせ、妊産婦とその家族をサポートしていく必要性を感じます。高松会場では感染対策を行いながら、完全予約制での講座を開催いたします。講座の内容としては、主に妊婦さんを対象として「沐浴と抱っこ体験」、育児中の家族を対象とした「ベビーマッサージ」、ワークショップとして「足型アート」、妊娠中から子育てで家族を対象に「助産師相談」、特別座談会「眞鍋助産師とお産を語ろう」を予定しています。完全予約制での開催は初めてになりますので、どのくらいの方が来て下さるのか予測不能ですが、来てくださった方が笑顔になって帰っていただけるよう努めてまいりたいと思います。また、この事業の醍醐味は、施設の助産師と地域の助産師が手を合わせ一緒に作り上げていくことにもあります。助産師同士の交流も楽しみたいと思いますので皆様ご協力よろしくお願いします。



西会場実行委員長 綱井朝代



今年も開催します丸亀会場。感染対策をしっかりと行い集客方法等にも工夫した昨年同様、今年も完全予約制で11月6日（日）岡田コミュニティセンターにて「いいお産の日」記念イベントを行います。

イベント内容は、「赤ちゃんの抱っこと沐浴体験」「マタニティヨガ」「ベビーマッサージ」「よってきまい！コーナー（相談、計測と足型スタンプ）」の4ブース。そして、今年は参加者へのお楽しみコーナー（？）として、妊婦体験ジャケットコーナーが会場内のどこかに設置されます。今年は

1 家族 2 ブースの参加を可能としています。完全予約制のため、各家族が参加できるブースは限られてはいますが、楽しく過ごしていただけると嬉しいです。

初めてこのイベントに参加したのは助産学生とき。寒い11月でしたが、イベントが始まるとあっという間に会場はいっぱいになり、参加者と助産師の熱気で溢れ、助産師パワーに圧倒されたことを覚えています。コロナ禍で生活様式も大きく変わりましたが、助産師の何かサポートしたいという思いは何年経っても変わらず。不安をかかえている妊婦さんや育児中の方、そしてその家族の方々が、楽しくほっとできる時間を過ごしてもらえるよう、11月に向けて準備をすすめています。

